



- ▶ 第5号によせて.....1
- ▶ 講演会の開催.....1
- ▶ 学術講座の開催.....2
- ▶ 私の研究.....4
- ▶ ワークショップ.....4
- ▶ 研究会報告.....4
- ▶ 新刊紹介.....5
- ▶ 翰苑の刊行・一言.....6

姫路大学

人文学・人権教育研究所

NewsLetter Vol.5

ニュースレター第5号によせて

研究所を維持、発展させてゆくのは、所員や皆様の熱意と努力にかかっています。少しでもその緊張をゆるめると、たちまち瓦解してゆくこと必至です。研究所というものはそういう存在です。

現在この研究所にあっては、構成メンバーの研究にたいする覚悟のようなものを私は感じています。ゆっくりとした歩みですが、その後大輪の花が咲くでしょう。

志は高く、姿勢は低く、コツコツと努力を積み重ねましょう。成果を急ぐことは禁物です。

姫路大学人文学・人権教育研究所所長 網澤満昭

人文学・人権教育研究所主催 今井小の実先生講演会

「女性と子どもの権利擁護の歴史—大正期の制度を中心に」

平成30年2月27日(火) 姫路大学に於いて

今井小の実先生(関西学院大学人間福祉学部教授)のご講演をたまわりました。



▲網澤所長挨拶 今井先生(右着座)



▲今井小の実先生 ご講演の様子

ご講演は、戦前の日本女性の置かれていた状況の説明から始まった。家父長制下において、男尊女卑、政治的権利の剥奪など女性の自由と権利が侵害されていた時代に、女性や子どもの権利を守り、その福祉を目指す運動が起こった。1911(明治44)9月創刊の『青鞥』に掲げられた「元始、女性は太陽であつた」という平塚らいてうの有名な言葉は、女性の自我の解放を鼓舞し「新しい女性」を生み出した。最初は、男女の「平等」を追求していたが、エレン・ケイの母性主義と出会い「差異」に着目した「平等」も「差異」もという視点の形成が行われた。

この思想は、大正時代に女性労働者の量的・質的変化に伴い、母性破壊、乳幼児死亡、子どもの養育問題の顕在化などを引き起こし「女性の子育てと就労の両立は可能か」を焦点に母性保護論争を巻き起こした。与謝野晶子、平塚らいてう、山田わか、山川菊江のそれぞれの人物や主張の説明、そして運動体として活躍する「新婦人協会」「婦選獲得同盟」「社会民衆婦人同盟」のそれぞれの活動内容と、やがて「母性保護連盟」を結成し、1937(昭和12)年3月の母子保護法成立への道のりを、易しく解説して下さった。

盛りだくさんの内容だったが、大変勉強になり、ご講演後の質疑応答も盛り上がり有意義な会となった。



<参加者のご感想(抜粋)>

- ・女性運動の変遷がよくわかりました。高度なお話でした。
- ・興味深いテーマでした。いろいろ知らないことを知ることができました。戦前の母子扶助法は、戦争で亡くなった兵士の妻達の救済であったように認識しています。いかがでしょうか。
- ・興味・関心ある内容だった。ゆっくりともう少し詳しく勉強してみたいと思います。
- ・女性の歴史の流れをもう一度整理しなおすことができ良かったと思います。
- ・講師の先生の親しみやすい語り口に聞き手も惹きつけられました。とても勉強になりました。知らないこともあり、今後調べていきたいと思います。
- ・美しい構内で、素晴らしい講演を聴かせて頂きありがとうございました。あらためて、日本女性運動の系譜を見て、聞き、考えることが多くあります。

柳田國男を語る

綱澤 満昭

◆講座によせて

柳田國男が民俗学の創始者であることは周知の通りですが、彼の民俗学を従来からの歴史学との違いがどこにあるかを理解することからはじめました。次の点にしぼってお話しをしました。

- ①山の研究、山人の研究のねらい
- ②稲作文化と柳田民俗学
- ③赤松啓介と柳田批判
- ④天皇制と柳田民俗学

◆講座日程

- 第1回 11月24日(金)
- 第2回 12月1日(金)
- 第3回 12月8日(金)

◆講座感想より

- ・興味深いお話なので、60分は短すぎ。90分になればよりベター。但し、お忙しい先生なので無理は言えませんが。簡単なものでよいので、レジメがあれば帰宅後「復習」できそうです。学長先生の著書、参考文献もあげていただけたら、うれしいです(リストで)。有難うございました。
- ・どうもありがとうございました。今後も続けてください。柳田國男に対する受止め方、見方について一つの考え方が示されたようです。

源氏物語を読む会

第9期 渡瀬 茂

◆講座の内容

宇治の大君は、自ら選ぶようにして死んでいった。薫は最愛の女性を失った。しかし、宇治十帖は終わらない。

薫は大君の思い出に生きていた。一方で妹の中君は匂宮の妻として、むかし源氏や紫上の住んだ二条院で暮らすことになり、やがて懐妊する。薫は中君の保護者を任じ、頻繁に二条院に出入りするが、そこで中君から、大君との姉妹のほかに、腹違いの妹が存在することを聞く。故八の宮はかつて、北の方の死後に召使い侍従の君との間に子を作り、母子ともに捨てたのであった。その後侍従の君は結婚し、姫君は連れ子として常陸の介の家で育てられている。その姫君は大君によく似た少女であった……………源氏物語最後のヒロイン浮舟の登場である。大君を描いて描ききれなかった最後の物語がはじまる。

◆講座日程とタイトル

- 第1回 第9期への導入
- 第2回 早蕨～大君のいない世界～
- 第3回 宿木(1)～二条院の中君～
- 第4回 宿木(2)～人形としての浮舟の出現～
- 第5回 東屋(1)～常陸介家と二条院の浮舟～
- 第6回 東屋(2)～舞台はふたたび宇治へ～



学ぶ「人権教育」

和田 幸司

◆講座の内容

人権教育は「人権としての教育」「人権についての教育」「人権を通じた教育」「人権のための教育」という側面で捉えられています。この講座では同和問題へのアプローチを中心として人権教育の枠組みについて考えました。歴史的・文化的な観点から整理し、実践的な教員としての力量開発を目指しました。

◆講座日程

- 第1回 7月24日(月)
- 第2回 7月31日(月)
- 第3回 8月21日(月)
- 第4回 8月28日(月)

◆講師より一言

現職の先生方から、「いままで知らなかったことが理解できてよかった」「これからの授業にいかすことができる」といった感想を頂戴しております。ありがとうございます。

講座では、小学校6年生の社会科授業、中学生の歴史的分野の授業を組み立てるうえで、重要事項を解説いたしました。また、参加者の意見交流を行う時間をとり、能動的な研修会となるように配慮致しました。参加者同士の交流も深まり、人権の輪が広がったと思います。私自身も多くの学びがあった4日間でした。

創る「人権教育」

和田 幸司

◆講座の内容

学ぶ「人権教育」の発展として、近世身分学習の教材開発を行いました。「単位社会集団」を鍵概念として、一般に社会に流布している「土農工商」的身分観の払拭をめざす小学校社会科歴史学習のカリキュラム開発を行いました。さらに、その開発した授業を参加者の教員が実際に授業を行いました。研究授業の成果と課題については、別冊としてまとめましたので、関心のある方はご一報ください。

◆講座日程

- 第1回 7月24日(月) 於：姫路大学
- 第2回 7月31日(月) 於：姫路大学
- 第3回 8月21日(月) 於：姫路大学
- 第4回 8月28日(月) 於：姫路大学
- 第5回 11月30日(木) 於：姫路大学
- 第6回 12月14日(木) 於：上郡町立上郡小学校
- 第7回 12月15日(金) 於：上郡町立上郡小学校
- 第8回 12月21日(木) 於：姫路大学

◆備考

授業研究に際しましては、兵庫県教育委員会、赤穂郡上郡町教育委員会、上郡町立上郡小学校の多大なご協力を戴きました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

赤とんぼの母子

和田典子

◆講座の内容

第1回 9月2日(土)

童謡「赤とんぼ」の作者三木露風は、6歳の時、両親の離婚により、祖父に引き取られて成長する。母の愛に包まれた何不自由ない至福の生活から一変した孤独や寂しさを埋めるように文学に熱中した。その思いが、後に多くの詩や童謡を生む。母待ちの紅葉谷の情景を詠う「山彦」、母の居る幸せを探す「山づたひ」、そして「赤とんぼ」へと増幅していく寂しさと郷愁の正体を語る。

第2回 9月9日(土)

露風の母かた子は、鳥取藩家老の娘に生まれながら、幕末の混乱期の不幸に巻き込まれ、忠臣堀正(典獄)の養女となり各地を転々として成長する。龍野の三木家に嫁ぎ、露風、勉の2児を設けるものの離婚。自立の道を求め、東大医学部付属看病科に学ぶ。キリスト教的人道主義を貫く新聞記者碧川企救男と結婚し、5人の子どもを設け、貧しいが楽しい家庭を築く。貧者や弱者に寄り添いボランティア、禁酒運動リーダー、婦人参政権運動幹部として活躍する。明治、大正、昭和をしなやかに生き抜いた女性かた子を、詩人として大成した露風が応援する。母と子の絆を書簡や作品を通して語る。

◆講座感想より

三木露風は地元の文学者でもあり、身近に感じていましたが、お母さんに対する想い、さびしい日々が詩に反映されている事がわかり、これからは「赤とんぼ」などの唄を耳にすると胸があつくなりそうです。

播磨の部落史を学ぶ

和田 幸司

◆講座の内容

部落差別の解消をめざして、科学的な認識を共有し、共に学び合いを深めることをねらいとしています。

かつての教育・啓発のなかでは、近世政治起源説を前提に“近世被差別民は人のいやがる仕事を強制されてきた”と言われてきました。しかし、多くの史料からは受け身的ではなく、粘り強い生産・文化の担い手としての存在が浮き彫りになっております。

今年度の講座では、「種姓観念」「貴賤観念」「浄穢観念」をキーワードにしながら、上下の「タテ」の差別ではない、「ヨコ」の差別の状況について解説をしております。なぜ、近代になっても「穢多」身分だけの差別が残存していったのか、この社会的背景に迫ります。

◆講座日程

- 第1回 1月20日(土)
- 第2回 2月17日(土)
- 第3回 3月17日(土)

◆講師より一言

今年度はより多くの方からの受講希望があり、大変驚いております。と同時に、身が引き締まる思いで講座に臨んでおります。一人ひとりの人権が尊重され、すべての人が生きがいのある人生を創造できる社会実現にむけ、共に学びを深めてまいります。

唱歌・童謡をひもとく

和田典子・白石愛子

◆講座の内容と日程

四季折々の唱歌を選び、歌の誕生秘話や歴史的背景を当時の貴重な資料をもとに和田が解説したのち、白石が音楽的な説明や唱歌指導の後、皆で歌いました。

- 第1回 5月19日(金) : 唱歌の特徴と唱歌今昔
- 第2回 6月16日(金) : 春の歌
- 第3回 7月21日(金) : 夏の歌
- 第4回 8月25日(金) : 秋の歌
- 第5回 9月15日(金) : 世界の歌曲から唱歌へ
- 第6回 10月20日(金) : 冬の歌

◆講座感想より

・私にとって新鮮な時をありがとうございました。唱歌に縁のない生活にとって先生のお話し、お声、音楽が非常に心楽しいものでした。・四季折々の唱歌が、楽しかったです。これからもこの様な機会をどんどん作って下さい。唱歌・童謡のなりたちが興味深くその時の背景等知る事ができて良かったです。

◆講師より一言

受講生に唱歌体験を語って頂いたり、質問やリクエストにお答えできる和気藹々とした雰囲気があったりする豊かな午後のひとときでした。白石先生の本格的な歌唱やグランドピアノ伴奏も大好評。(和田典子)
唱歌を通して皆様と楽しく有意義な時間が持てたことに感謝いたします。(白石愛子)

古文書入門

—近世の古文書(地元の史料)を読む

竹本 敬市

◆講座の内容

歴史の基礎史料である近世(江戸時代)の古文書を初歩から読み解くことをねらいとしています。近世の古文書はミズの這ったような続け文字で書かれていて読みにくいところがあります。でも、読めると書かれている意味も分かってきます。昔のことを知ることができます。地元に残る近世の古文書を読み解くことによって地域の歴史だけでなく日本の歴史にも関心を持っていただこうと思って開講しています。一緒に読み解いていきましょう。

◆講座日程とタイトル

- 第1回 9月22日(金) 五人組帳の前書について I
- 第2回 9月29日(金) 五人組帳の前書について II
- 第3回 10月6日(金) 訴状「乍恐以書付…」について
- 第4回 10月27日(金) 「濟口一札」について
- 第5回 11月10日(金) 書簡について
- 第6回 11月17日(金) 播州郡中取締について

◆講師より一言

受講者の皆さんの古文書に対する関心度は非常に高く、講座が始まる時間の前から熱心に取り組まれています。また、古文書を読むことを楽しまれています。学ぶ喜びを持っておられます。古文書講座で参加の皆さんから元気をいただいています。学ぶことの大切さを学ばせてもらっています。これからも古文書を読むのを続けて人生を共に楽しみましょう。

私の研究・・・渡瀬茂

「人文」という言葉は、ヨーロッパの、たとえばフランス語のユマニテ *humanité* などの翻訳に用いられたものですが、それじたいは近代になって作られた言葉ではありません。「文」という漢字の本来の意味は「模様」で、天の模様が「天文」であり、人の模様が「人文」です。地の模様は「地文」ですが、これは似た意味で「地理」ともいいます。易経のような、中国のもっとも古い書物に使われています。天帝の意思は天地人の模様に示されると考えられました。すこしのちの南北朝の時代に「日月者天之文也。山川者地之文也。言語者人之文也」というのがあって、わかりやすく整理されています。太陽や月は天の模様、山や川は地の模様、言葉は人の模様なのです。そして漢字文化圏では、言葉とは多くの場合、文字に書かれたものです。つまるところ、私のように日本や中国の古典を学んできたものにとっては、「人文学」とは文字に書かれたものの学問にほかなりません。

さてその文字ですが、見る文字はなんでも読みたがる幼児だったようです。小学校低学年のころが漫画週刊誌の創生期で、漫画も載っているが読み物も載っていて、軍艦に興味を持つようになりました。四年生ごろには大人向けの戦記雑誌を定期購読してもらい、夢中になって読むようになります。伊藤正徳の「連合艦隊の栄光」や「大海軍を想う」が愛読書となり、駆逐艦の名前を通して「東雲」「時雨」「不知火」「電」などが訓読みで読めたり、戦艦の名前で「扶桑」などという古典漢語を覚えたり、変な小学生です。学校の勉強とは関係のないことばかり覚えて、これが今振り返ると、古典語彙への開眼でした。また、小学館の「少年少女日本歴史全集」を読み、日本の神話や歴史が好きになります。学校で教わらない日本神話を、この本で学びました。

中学校に進むと古典の授業があって面白く、古典文学が好きになります。またやがて古典文法を学び、品詞分解が趣味という、これまた変な中学生です。歴史が好きなのは相変わらずです。高校では高津春繁「比較言語学」や泉井久之助「ヨーロッパの言語」を読んで言葉を学問的に学びたいと思うようになります。また友達の石塚君に文芸部に引きずり込まれて西脇順三郎や安西冬衛の詩に親しみ、島崎藤村の長編小説をほとんど読み通します。国語教師の担任牧野先生に、国語以外の勉強をしると叱られながら、進路の選択肢は国文科以外になくなります。

大学では、平安朝の歴史書である「栄花物語」で卒論を書き、論文を書き続けて本を一冊まとめました。卒業後は塾の国語教師となって、趣味だった品詞分解が職業になります。その延長線上で、古典の助動詞についての本も一冊まとめました。この二つは専門といえば言えそうですが、心もとないものです。高校生のころに、一生勉強して暮らしたいと思いました。なんとか続けてきましたが、学びたいと思ったことの百分の一も学べずに終わりそうです。余生も少なく、日暮れて道遠しの感がします。あとどのくらい勉強ができるのでしょうか。

ワークショップ・・・戸邊俊哉 セルフリーディングの大切さ

本学附属図書館は、今年度も「トライやるウィーク」で姫路市立大の中学校の中学生2名を受け入れ、大学図書館の仕事を体験させています(5月29日～6月2日)。本研究所では、この期間を利用し、中学生に対して図書取扱講習を行ってまいりました。

今年度は、5月31日(水)の11時から約1時間、「セルフリーディングの大切さ」を中学生にお伝えしました。

また、和田典子先生からも稀少本を見せながら保存の説明をしていただきました。

研究会報告・・・和田典子 家庭支援史研究会

研究会概要

家庭支援史研究会は、家庭支援の歴史に興味と関心のある人々が集って、研究発表や資料を読む勉強会をしています。昨年度は、エレン・ケイの思想の影響を受けて発行された大阪児童愛護連盟(後日本児童愛護連盟)の機関誌『子供の世紀』や周辺資料を輪読して、大正・昭和初期の育児を支援の概要を勉強しました。今年度は、日本育児協会の機関誌『育児雑誌』をも付き合わせて読むことによって、母子支援運動の運動性について研究しました。

研究会開催日と内容

- 4月24日(月)「子どもの人権と福祉を拓いた大阪児童愛護連盟の足跡を辿る」研修会報告と反省。
- 5月18日(木)総会 役員選出、会計報告など。
- 6月9日(金)「大阪毎日新聞慈善団の乳幼児保護活動」和田真由美発表。「『子供の世紀』1~3巻までにおける文学作品」渡辺貴美子発表。『育児雑誌』掲載の著名執筆者の業績説明と作品確認。
- 7月13日(木)「志賀志那人が大阪の幼児教育に与えた影響—公的施設の利用に踏み切った経緯とその保育内容の工夫—」和田典子発表。川北典子「「治療教育」における児童の福祉と文化—三田谷啓の仕事—」を輪読。
- 10月11日(水)永岡正巳「大阪市「社会部報告」とその周辺」を輪読。『大大阪』経済資料も参照。
- 11月～平成30年2月 今井小の実先生講演会企画・準備。交渉など。

人文学・人権教育研究所
＜ワークショップ＞
セルフリーディングの大切さ



平成29年5月31日(水)
11:00～12:00
＜講師＞ 戸邊 俊哉 教育学部 子ども文化学科 講師
人文学・人権教育研究所 研究員
会場：姫路大学附属図書館
対象：本学学生、図書館員
トライやる・ウィーク参加の中学生
主催：姫路大学 人文学・人権教育研究所





思想は知識ではない。知識の積み重ねが思想になることはない。諸々の現実遭遇した人がその中で苦悩し葛藤を繰り返す中で縫いあげられてゆくものである。血肉化された思想とはそういうものである。人の魂をゆさぶり、決断の弾機となるものは、知識の豊富さや論理の整合性ではない。

【目次】

- 橋川文三私見
- 村上一郎と草莽
- 竹久夢二と悲哀
- 岡倉天心のアジアによせるおもい
- 故郷喪失とナショナリズム—柳田国男の場合
- 祖先崇拜と御霊信仰
- ふたたび「教養」を考える
- 阿呆のつぶやき

日本史における被差別民はいかなる存在か…
教科書・授業における人権教育の実践と展望



【目次】

- はしがき
- 第I部 近世身分の特質
 - 第1章 近世身分をめぐる研究の進展
 - 第2章 江戸時代中期における「土農工商」観
- 第II部 小学校における近世身分学習
 - 第3章 小学校社会科における近世身分学習の留意点
 - 第4章 「単位社会集団」を中心概念とした授業構成
 - 第5章 「土農工商」的身分観の払拭を目指す授業構成
- 第III部 中学校における近世身分学習
 - 第6章 中学校社会科における近世身分学習の課題
 - 第7章 社会科における「理論と実践の融合」の現状と課題
 - 第8章 単元「さまざまな身分と生活」の授業開発
- 第IV部 先行研究を生かした授業づくり
 - 第9章 「中世の文化と差別された人々」の授業実践
 - 第10章 市民的資質を高める総合学習の授業実践
 - 第11章 「合意形成」の視点を取り入れた人権学習の授業構成
- 第V部 教師の力量形成を目指して
 - 第12章 アクティブ・ラーニングによる教員研修プログラムの開発
 - 第13章 教員の資質向上と研修
 - 第14章 教員相互の協働する力を高める問題解決型研修
- 終章 近世身分を学ぶ意義
- 参考・引用文献一覧
- あとがき

本書は、歴史学研究を専門とする著者が理論と実践の往還を行い、小・中学校教員の探究的な実践的指導力の育成を目指す。（ミネルヴァ書房 HP より）

『翰苑』の刊行

第8号 2017年10月刊行

〔巻頭エッセイ〕
地獄を覗く／綱澤満昭

〔特集〕柳田国男と民俗学
講演録 柳田国男の魅力／山折哲雄
柳田民俗学と風景論／綱澤満昭
柳田国男と「特赦の話」
—民俗の思想の「根」を求めて／永池健二
かぐや姫の結婚
—柳田国男の異類婚姻譚説を学ぶ／渡瀬 茂

〔論考〕
慶応期における播州三日月藩の
「農兵隊」「農兵別隊」について／竹本敬市
二〇世紀後半以降からの障害児（者）福祉と幼児教育及び学校保健の変遷からみえてくる課題／上田ゆかり
明治・大正における子どもの歌—唱歌「蛙」と童謡「青蛙」の音楽的比較
／白石愛子

〔連載〕
道徳教育と人権教育の方法論的関連性／和田幸司

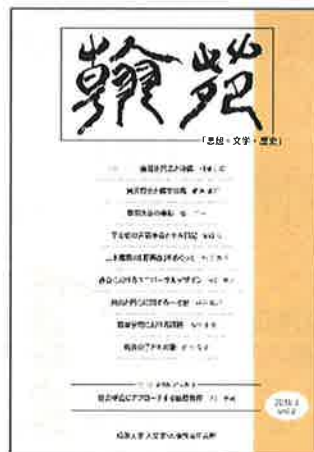


第9号 2018年3月刊行

〔巻頭エッセイ〕
儀間比呂志と沖繩／綱澤満昭

〔論考〕
宮沢賢治と縄文の風／綱澤満昭
豊田次雄の業績／畑中圭一
平安朝の言語革命と土佐日記／渡瀬茂
三木露風の「野薔薇」をめぐる／和田典子
教育におけるユニバーサルデザイン／吉田晃高
自由と回心に関する一考察／戸邊俊哉
器楽学習における課題／山本千紗
戦後の子どもの歌／白石愛子

〔連載〕
社会構造にアプローチする道徳教育／和田幸司



研究者からの一言

■拙著『土農工商』はどう教えられてきたか』（ミネルヴァ書房）を上梓いたしました。皆様にお手にとりて戴けますと幸いです。（幸司）

■大越史記全書の良い活字本を入手できたのは、望外の幸せでした。（わ）

■「感動とドラマ」に出会える歴史研究。「こんな人がいたのか」「こんなことがあったのか」歴史研究は感動とドラマの瞬間に出会えます。生のものです。古文書をひもといて調べていくことでその場面に会えます。古文書のあるところに「感動とドラマがある」ということですね。（竹本）

■龍野で三木露風の母「碧川かたを朝の連ドラの主人公にする」会が発足し、名前や生年月日でさえ定かでない所からの検証、研究、そして露風母子の知名度アップのための講演に、忙し過ぎてあっぴあっぴのこの頃です。（典子）

■所員1年生です。年度の終わりを迎えてようやく、研究所の年間スケジュールを把握はじめています。（千紗）

■今年はデスクワークが増え、1時間に1度は歩くことが大切だと分かりました。（愛子）

■恩師からの質問に10年越しで答えられたと思ったら、まだまだでした。（俊）

■孝行のしたい時分になんともやら。心静かに過ごすつもりが、あっという間に過ぎ去っていった一年でした。（あ）

■スクーリングでたまにしか姫路大には行けなくなりましたが、教職員の皆様が以前同様温かく接して下さるのが有難い限りです。（松下）

姫路大学

人文学・人権教育研究所

University of Himeji Research Center
for the Humanities and Human Rights
Education

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町 2042-2

TEL: 079-247-7301 (代) FAX: 079-247-7739

研究者

【所長】

綱澤 満昭

【兼任研究員】

渡瀬 茂

山本 千紗

和田 幸司

白石 愛子

【嘱託研究員】

松下 正和

【専任研究員】

和田 典子

竹本 敬市

戸邊 俊哉

吉田 晃高